⑵　国内産食糧用小麦の流通量（前年産と当年産の食糧用小麦のうち、当年度内に市場に流通する量）

平成25年度の国内産食糧用小麦の流通量は、平成25年産の国内産食糧用小麦の供給量に、年度内供給比率（注3）を乗じ、さらに、平成24年産国内産食糧用小麦の在庫量を加えて、78万トンと見通します（表２）。

（注３）　当年産のうち、当年度内に生産者から実需者に引き渡される割合。平成24年産及び平成25年産については、実需者から提出された平成24年産麦の購入計画から算出した値である（以下同じ。）。

表２　国内産食糧用小麦の流通量の推移

（単位：万トン）

年産	食糧用小麦の供給量 ①	うち年度内供給量 ②	年度内供給比率 ②／①	次年度繰越（在庫） ①－②
平成20	84	38	44.6%	47
21	64	30	46.5%	34
22	53	25	46.1%	29
23	69	22	31.6%	48
24見込み	81	38	46.4%	44
25見通し	75	35	46.4%	
		25年度流通量見通し		78

注：１）国内産食糧用小麦の供給量は、は種前契約に基づき、生産者から実需者に引き渡される数量である。

２）四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

１－３　米粉用国内産米の流通量

米粉用米は、市場規模がまだ小さく、平成25年産の取組数量を現段階で予測することは困難であることから、平成25年産の米粉用国内産米の取組計画認定数量は、平成24年産と同量の3.4万トンと見通します。

平成25年度内の流通量は、新米の出回り等を考慮し、3.4万トンと見通します（表３）。

表３　米粉用国内産米の流通量の推移

（単位：万トン）

年産	米粉用米の取組計画認定数量 ①	25年度内出回り比率 ②	米粉用米の25年度流通量 ①×②
平成20	0.06		
21	1.3		
22	2.8		
23	4.0		
24	3.4	25.0%	0.9
25見通し	3.4	75.0%	2.5
	25年度流通量見通し		3.4

資料：新規需要米取組計画認定結果（農林水産省調べ）

注：１）出回り比率は、新米の出回り時期を踏まえ、前年産が当年４～６月、当年産が７月～翌年３月までとして算出。

２）25年産取組計画認定数量は、24年産取組計画認定数量と同量とおいた。

１－４　外国産食糧用小麦の需要量

平成25年度の外国産食糧用小麦の需要量は、総需要量571万トンから国内産食糧用小麦流通量及び米粉用国内産米流通量82万トンを差し引いて489万トンと見通します（表４）。

１－５　外国産食糧用小麦の備蓄目標数量

現在、不測の事態に備え、国全体として外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分の備蓄を行っています。

平成25年度の備蓄目標は、94万トンとします（表４）。

なお、民間が2.3か月分を備蓄する場合、そのうち1.8か月分については、国が保管料を助成します。

１－６　外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）

平成25年度の外国産食糧用小麦の輸入量は、外国産食糧用小麦の需要量に備蓄数量の増加分を加えた491万トンと見通します（表４）。

なお、飼料用小麦の輸入については、別途農林水産大臣が定める飼料需給計画に基づき、行います。

表４　平成25年度の食糧用小麦の需給に関する見通し

（単位：万トン）

総需要量		A	571
国内産	国内産食糧用小麦の流通量	B	78
	米粉用国内産米の流通量	C	3
	計	D＝B＋C	82
外国産食糧用小麦の需要量		E＝A－D	489
外国産食糧用小麦の備蓄数量			
	24年度（見込み）	a	93
	25年度（目標）	b	94
	増減	F＝b－a	1
外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）		G＝E＋F	491

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

２－１　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量

食糧用大麦及びはだか麦の１人当たりの年間消費量は、概ね0.2～0.3kgで推移しています（図２）。

このため、平成25年度の食糧用大麦及びはだか麦の総需要量は、近年の平均的な需要量になると見込まれることから、過去３か年（平成22年度から平成24年度まで）の平均需要量である32万トンと見通します（表５）。